



里海学びの講座⑤

開催しました！



- 日時 平成30年12月1日(土) 10:00~12:00
- 講師 御厨 義道氏
(香川県立ミュージアム主任専門学芸員)

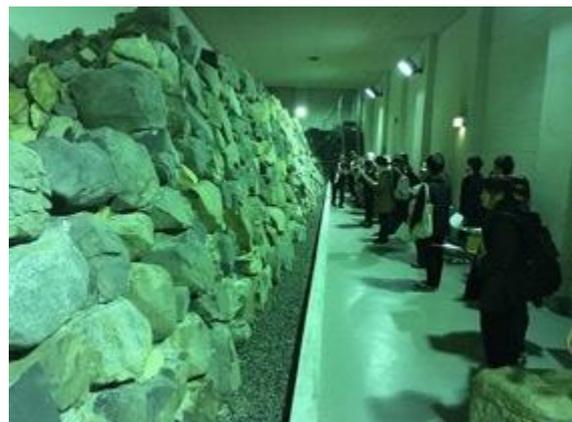
12月1日(土)、「里海学びの講座⑤」を開講し、28名が受講しました。日本三大水城の一つ、高松城跡とその周辺を巡り、瀬戸内海と高松城の関わりの歴史について学びました。



江戸時代に描かれた城下絵図などが配布され、この絵図と現在を対比しながら、街歩きの中で今も残る石垣ややしろといった構造物を観察したり、地形を推察したりしました。

レクザムホールに残る石垣の見学では、受講者が初めてその存在を知る人もいて、感嘆の声をあげていました。

ミュージアムやレクザムホールの外側の石垣は高松城の中堀を形成していたものと言われており、石の並びかたや形、色などから、水に面していたことがわかりました。





玉藻公園の周りを歩きながら、水手門や櫓の跡を見学しました。このあたりは当時は海に面しており、水手門から船で人やものの出入りがあったり、櫓から、外からやってくる敵に対する見張りなどを行っていたとの解説がありました。



つづいて高松城下にあったとされる街並みを訪ねました。北浜恵比寿神社は昔の地図にも現在の位置と変わらない場所に記載がありました。古くからそこに住む人々の生活とともに存在していたことが伺え、受講者は当時の様子に想いを馳せていました。



昔の地図と今の街並みを対比させると、港の埋め立てによって独特な道の形成につながったということがわかりました。高松城を起点として、瀬戸内海に面した水城ならではの特徴的なまちづくりが行われていたことが伺え、受講者は熱心にメモをとりながら、高松城と海との関わりの歴史に関心を寄せていました。